

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 46 号

第 46 週 (11 月 14 日 ~ 11 月 20 日)

発行年月日:平成17年(2005年) 11 月 25 日

発行 行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

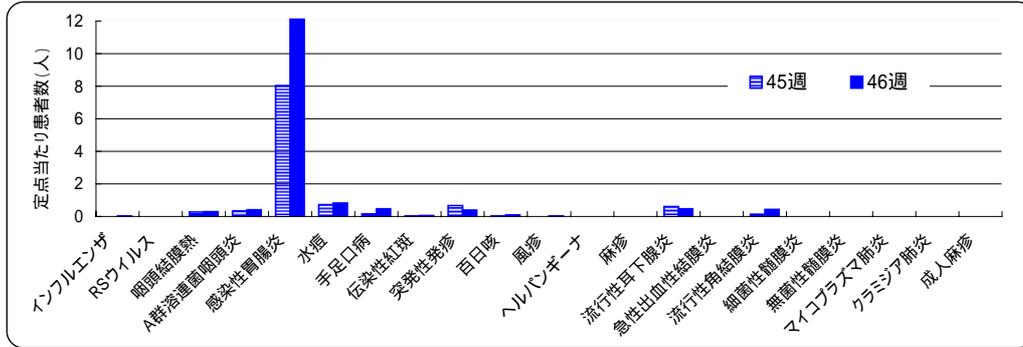
今週の感染症動向

感染性胃腸炎の発生は増加傾向持続 大津および水口保健所管内でインフルエンザ発生

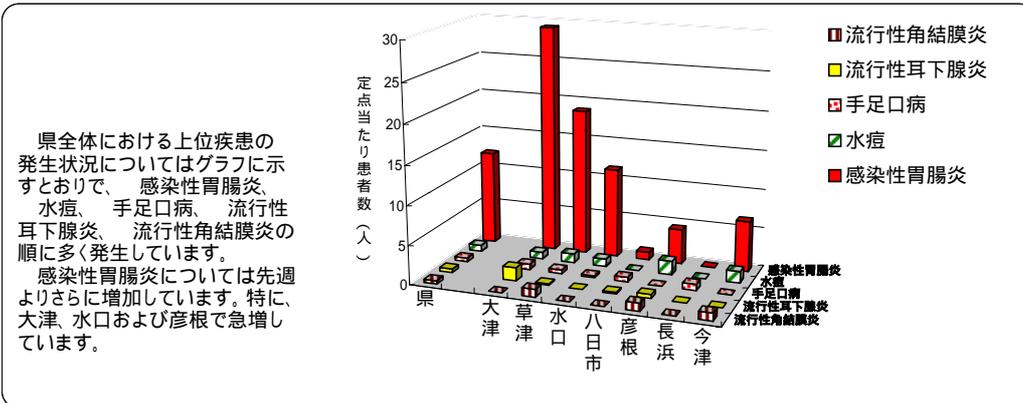
定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(11月7日～11月13日)の報告数よりさらに多くなり、特に感染性胃腸炎は急増しています。増加を示した疾患はA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、百日咳等で、減少した疾患は突発性発しんおよび流行性耳下腺炎です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。また、大津および水口保健所管内からインフルエンザ患者の発生が報告されています。

今週は全数報告感染症の届出はありませんでした。

定点把握の対象となる5類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象5類感染症、第46週)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の順に多く発生しています。感染性胃腸炎については先週よりさらに増加しています。特に、大津、水口および彦根で急増しています。

インフルエンザに対する一般的な注意

今週の滋賀県感染症発生動向調査において、大津および水口保健所管内のインフルエンザ患者定点からインフルエンザ患者発生が報告されました。全国においても定点当たり患者数は増加傾向となり、過去5年間の同時期と比較するとやや多い状態が続いています。都道府県別の定点当たり患者数は、山形県1.38、沖縄県1.28、熊本県0.94、山梨県0.61、長野県0.60の順に多くなっています。

インフルエンザに対する一般的な注意としては、

- 外出時にはマスクを使用する。
- 帰宅時には手洗いとうがいを心がける。
- 睡眠を十分にとり、栄養に気を配る。
- 室内を適度な湿度に保つ。
- 人混みに出かけることをなるべく避ける。
- 早めに医療機関を受診する(受診する際には、マスクを着用する)。

ことが大事です。

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (46週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (46週)	全国 (46週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 7	509	9	576
	腸チフス	0	0	45	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	3,364	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 37	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 153	0	136
	オウム病	0	1	31	1	39
	デング熱	0	1	69	2	45
	マラリア	0	0	63	2	73
	レジオネラ症	0	3	243	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	5	618	8	580
	ウイルス性肝炎	0	2	256	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	138	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	51	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	7	1,024	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	71	2	85
	梅毒	0	0	474	4	516
	破傷風	0	0	100	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	59	0	49
	急性脳炎	0	2	^{(*)3} 161	1	164

* 1: 平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

* 3: 平成17年第44週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

全国における全数報告感染症の発生状況 - iDWR2005年第44週、10/31～11/6より -

1類感染症：報告なし	4類感染症：日本脳炎	3例	5類感染症：急性脳炎	1例
2類感染症：細菌性赤痢	E型肝炎	1例	ウイルス性肝炎(B型)	1例
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症	レジオネラ症	5例	後天性免疫不全症候群	11例
4類感染症：つつが虫病	5類感染症：アメーバ赤痢	7例	劇症型溶血性	
デング熱	梅毒	3例	レンサ球菌感染症	1例
	破傷風	3例		

2) 定点把握の対象となる5類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第41～46週、10/10～11/20)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	41週		42週		43週		44週		45週		46週	
	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	(11/7～)	11/14～	42	43	44	45	46	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0.04						
RSウイルス感染症	0	0	0	0.06	0	0						
咽頭結膜熱	0.45	0.24	0.15	0.24	0.27	0.30						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.21	0.48	0.30	0.36	0.33	0.42						
感染性胃腸炎	1.39	1.55	3.94	5.79	8.03	12.12						
水痘	0.27	0.36	0.33	0.52	0.73	0.82						
手足口病	0.45	0.33	0.30	0.36	0.15	0.48						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.03	0.03	0	0.03	0.06						
突発性発しん	0.48	0.45	0.64	0.55	0.67	0.39						
百日咳	0	0	0.03	0.03	0.03	0.09						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0.03						
ヘルパンギーナ	0.12	0.15	0.15	0	0	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.55	0.67	0.73	0.48	0.61	0.48						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.29	0.14	0.14	0.43						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.29	0.29	0.29	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

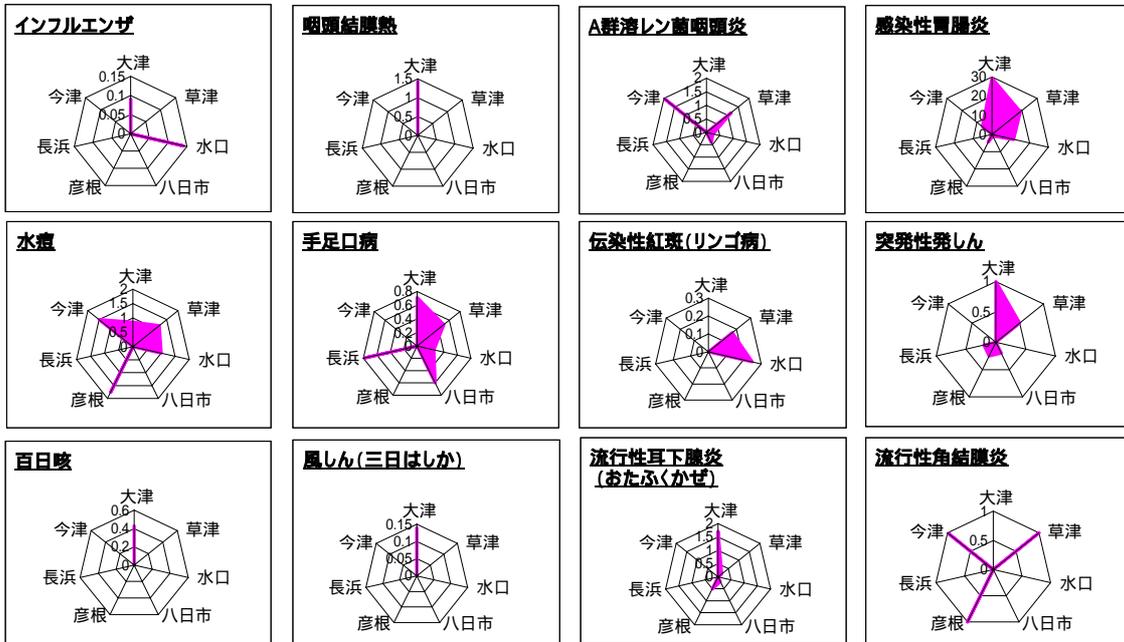
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第46週、11/14～11/20)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							疾患別発生状況(県全体)				
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津				
インフルエンザ	0.04	0.09	0	0.14	0	0	0	0				
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0				
咽頭結膜熱	0.30	1.43	0	0	0	0	0	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.42	0	1.17	0.25	0.40	0	0	2.00				
感染性胃腸炎	12.12	29.29	18.83	11.50	1.00	4.50	0	6.50				
水痘	0.82	0.86	1.17	1.00	0	1.75	0	1.50				
手足口病	0.48	0.71	0.50	0.25	0.60	0	0.80	0				
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0	0.17	0.25	0	0	0	0				
突発性発しん	0.39	1.00	0.50	0	0.20	0.25	0.20	0				
百日咳	0.09	0.43	0	0	0	0	0	0				
風しん(三日はしか)	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0				
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0				
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.48	1.71	0.17	0	0.20	0.50	0	0				
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性角結膜炎	0.43	0	1.00	0	0	1.00	0	1.00				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0				

インフルエンザおよび風しんの定点当たり患者数は、それぞれ0.04、0.03となっているためグラフに表示されていません。

0 2 4 6 8 10 12
定点当たり患者数(人)

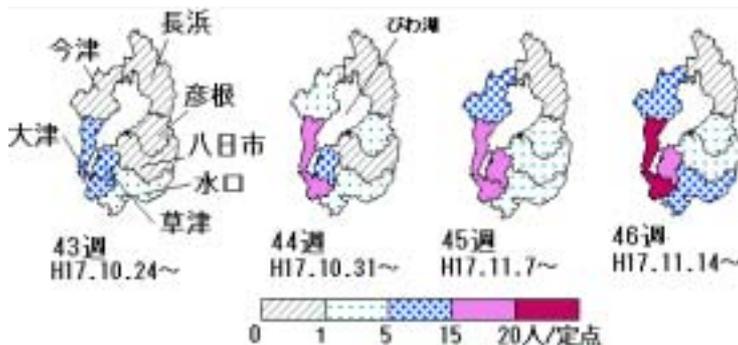
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

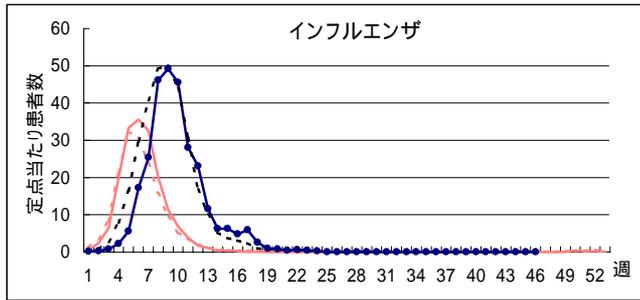
保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザについては、2005/2006シーズンになって最初の報告です。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は草津および今津で、水痘は彦根および今津で先週より増加しています。百日咳は大津からの報告が多くなっています。また、感染性胃腸炎は大部分の保健所で増加しています。

感染性胃腸炎の週別発生状況(平成17年第43～46週、H17.10.24～H17.11.20)

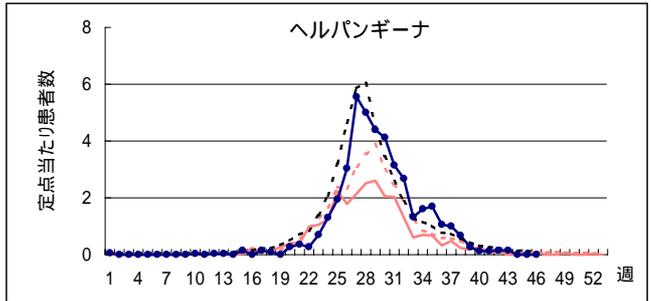
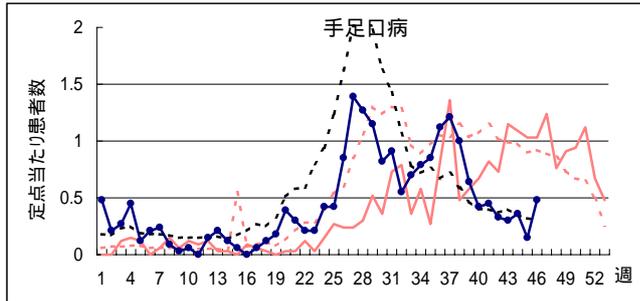
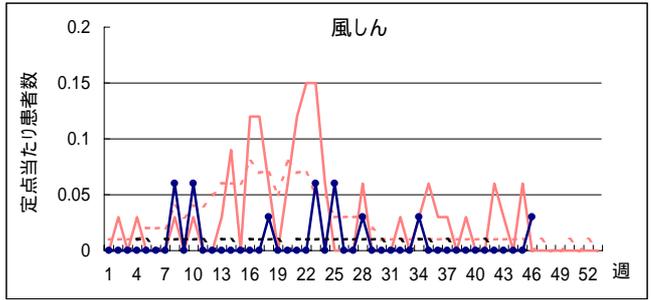
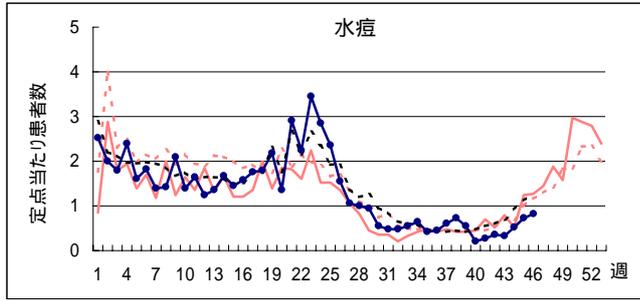
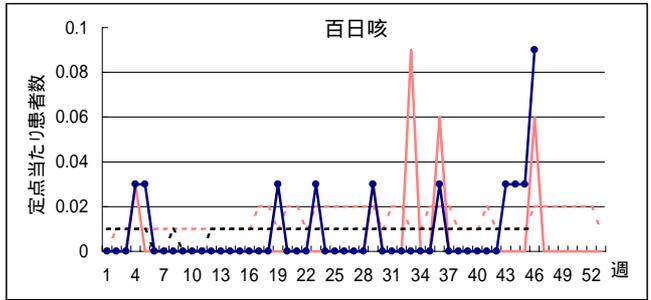
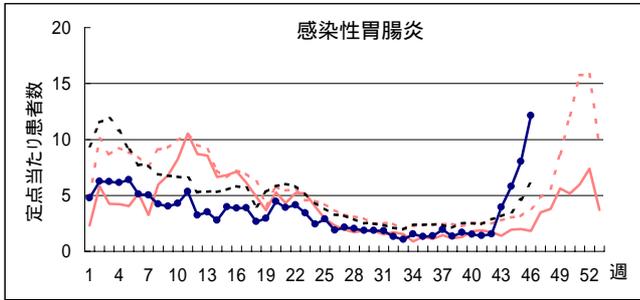
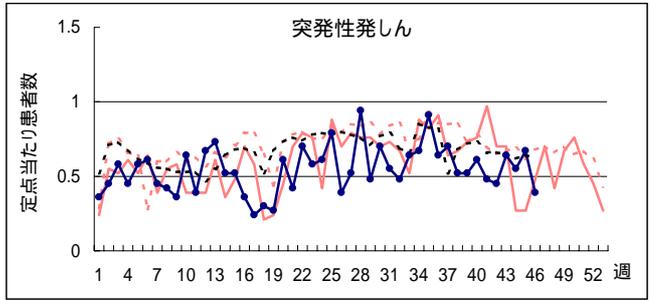
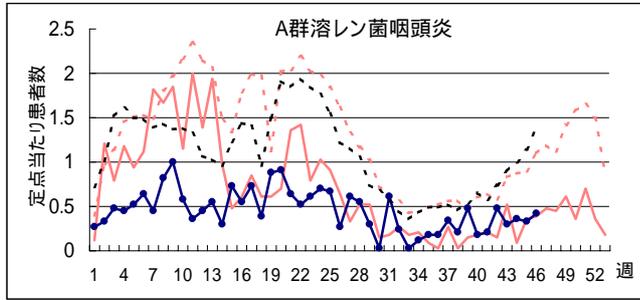
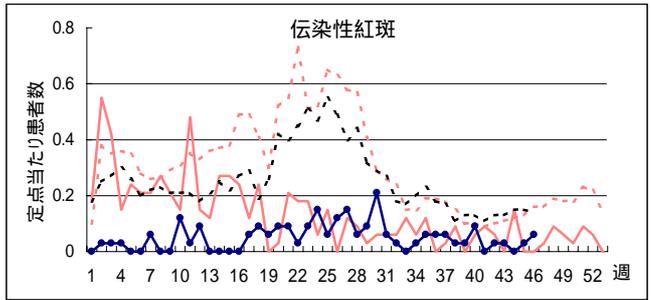
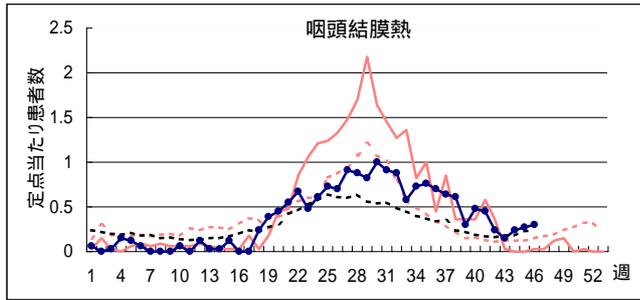


平成17年第43～46週の発生状況についてみると、長浜保健所管内における増加はみられませんが、他の保健所管内においては増加傾向を示しています。特に、大津、草津および水口保健所管内では毎週連続して増加しています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第46週、H17.1.3～H17.11.20)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第46週、H17.1.3～H17.11.20)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

